

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101853	事業の開始年月日	2005年4月1日	
		指定年月日	2005年4月1日	
法人名	社会福祉法人 大樹			
事業所名	グループホームひなた ユニット名：1階			
所在地	(〒 981-0944 ) 宮城県仙台市青葉区子平町17番19号			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2024年3月13日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひなた1階では「やさい」の理念を掲げて、職員それぞれケアを行っております（やさい：優しい気持ち さ：支えあう い：いつも笑顔で）。ホールに掲示してある手作りの壁飾りは季節ごとに張り替えており、随時入居者様と職員と一緒に作成しています。季節感を取り入れた掲示物を飾ることで、コロナ禍でこれまで以上に外出が難しくなっている入居者様方に季節を感じて頂けるように努めています。行事は全体で行う大掛かりなもの他、各入居者様に希望を募りそれらを反映できるように努めております。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2024年3月29日	評価機関 評価決定日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の理念】 認知症高齢者が住み慣れた町の中で、顔なじみの地域の方々とのふれあいを楽しみながら、本人の生きる力・残存能力を最大限に発揮し、自分らしさを十分に保ちつつ明るく生活できるように介護し、「ここで暮らせて幸せだった。」と、実感できるサービスを提供します。 〈ユニット理念:1階〉「やさい」（みんなが持っている「やさしい気持ち」、みんなで「支え合う」、みんな「いつも笑顔で」） 〈ユニット理念:2階〉法人理念と同じ</p> <p>【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等 母体法人の「社会福祉法人大樹」は、仙台市内でグループホーム・特別養護老人ホーム・デイサービス・小規模多機能型居宅介護事業所などを運営している。『福祉と医療の連携による安心・快適なくらしのネットワーク』を掲げ、地域の医療機関、同法人の介護事業所と連携を図りながら取り組んでいる。「グループホームひなた」は、JR仙山線の東北福祉大前駅から徒歩15分ほどの静かな住宅街の中にある2階建ての建物で、2005年に開所した。</p> <p>【事業所の優れている点・工夫点】 「『自分らしさ』を十分に保ち～」とするホーム理念を念頭に、地域の中で入居者が、その人らしく生活できるように外出支援に努め交流の機会を作っている。ホームが設立して19年目となり、地域のごみ集積所として敷地の一部を提供したり、行事や避難訓練に近隣住民が参加し協力が得られるなど、地域との関係を深めている。家族には広報紙「ひなたぼっこ」と一緒に、一人ひとりの様子を伝える手紙を添えるなど、連絡を密にするように努めている。職員が意見や提案を「会議ノート」に記載し、会議時に検討課題に反映するなど、職員の意見を尊重しながら環境整備を行っている。法人として職員の資格取得や外部研修参加時の費用補助制度を設け、職員のスキルアップを図っている。理事長が医師であり、かかりつけ医や協力医療機関（歯科も含）、訪問看護師と医療連携が充実している。</p>
--

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホームひなた
ユニット名	1階

**V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームひなた）「ユニット名：1階」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度ごとに会議の場で話し合い理念を決定している。ひなた全体の理念の他、1回独自の理念を作り職員で共有している。	年度末に理念について職員で振り返りを行い、2023年は継続することにした。理念を確認しやすいよう、ホーム内やトイレに掲示し意識付けに努めている。入居者が入居後も地域や家族との繋がりが希薄にならないよう、面会支援や外出の機会を作っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様との散歩や職員の出勤時のあいさつを通して地域の方々との交流を図っている他、町内会の総会への参加や運営推進会議などで交流や情報交換を図っている。R5年には法人で夏祭りを企画し、たくさんの地域の方・ボランティアの方と交流を図ることが出来た。	町内会に加入し、地域用の広報紙「ひなた便り」を地域の情報紙と一緒に町内に回覧している。総会にも参加し、地域住民との関係づくりを大切に組み組んでいる。近隣住民とは散歩の際や、敷地の一部を地域のごみ置き場として提供しているので会う機会が多く、挨拶を交わしている。法人の夏祭りに住民も参加している。近くの大学の実習生やボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でひなたの入居者様の事や現状を説明することで情報の共有を図っている。また、ひなた敷地内にゴミ捨て場を設置して地域の方々に利用して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議を開催。町内会や民生委員・地域包括などの方々に参加して頂いている。昨年からは、入居者様のご家族様にも参加して頂くことが出来た。	家族代表・町内会長・副会長兼民生委員・地域包括職員・職員が参加し、奇数月に開催している。現在は中断しているが交番職員にも出席を要請し、防犯指導を受けていた。ホームからは運営・行事などの近況を報告し、町内から地域の情報を得ている。職員は議事録を閲覧し、また、全体会議でも報告され、情報共有している。家族からは終末期の対応や病院との関係などについて質問が出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新などで介護保険係とのやり取りがある。又、生活保護を受給している入居者様がいるため保護課とのやり取りもある。	地域包括職員が運営推進会議に参加し、情報交換している。地域包括支援センター主催の事例検討会や研修に参加し、ケアに活かしている。仙台市とは生活保護の入居者について連携しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内に「高齢者虐待・身体拘束禁止」に関する資料を掲示している。また、定期的に身体拘束・高齢者虐待防止の委員会・研修を実施して各職員の理解を深める機会を設けている。	身体拘束・虐待防止・権利擁護について年6回研修を行っている。3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会を開催し、グレーゾーンの事例を挙げ検討し、職員は議事録を閲覧して共有している。職員が「会議ノート」に記入した事例については、全体会議で検討したり、管理者が個別に相談にのることもある。外出傾向の強い人にはユニット間で連携し、一緒に散歩するなど対応している。玄関は防犯上、20時から6時まで施錠しセンサーを設置している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内に「高齢者虐待・身体拘束禁止」に関する資料を掲示している。また、定期的に身体拘束・高齢者虐待防止の委員会・研修を実施して各職員の理解を深める機会を設けている。	職員から出されたグレーゾーンの事例を挙げ、検討しながら研修を行っている。管理者は、職員が余裕を持って従事できるよう努め、普段から話しやすい雰囲気づくりに配慮している。また、ストレスチェックを実施し、産業医に相談できる体制を作り、職場環境を整えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に内部研修を企画して各職員への周知に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様との契約を行う際には、専門用語などは極力使わず、わかりやすい言葉で説明するように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所玄関にご意見BOXを設置している。また、ご家族様が来苑されたりご連絡句をした際などに入居者様の生活の様子をお伝えするとともに、ご家族様からの要望を伺うようにしている。	居室での面会を再開し、訪れた家族から意見や要望を聞いている。毎月、家族向けの広報紙「ひなたぼっこ」と一緒に、入居者ごとに日常の様子を書いた手紙を添えて、家族に送付しており、家族の楽しみになっている。家族には外出、外泊の相談をしたり、これまでの習慣などの話を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議などで意見交換の場を設けている。勤務の都合などで会議に参加することが難しい職員に対しては、「会議ノート」を設置し意見を記入して頂き、会議の場で活用している。	ユニット会議で入居者や業務について話し合い情報共有している。職員が気が付いたこと、意見・要望を自由に記入できる「会議ノート」を活用し、検討が必要な場合は会議で話し合い、情報共有している。法人では7つの委員会を設け、職員は役割を担い参加し運営に活かしている。研修や資格取得のための費用補助制度がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話しやすい雰囲気づくりに心がけている。又、年に2回面談を行い各職員の話聞く場を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修費用を法人が負担し、各職員が希望する研修に参加しやすいように勤務の調整も行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の内部研修への参加を促し、他事業所の職員と一緒に学び、交流する機会を設けている。また、スキルアップ研修などへの参加を促し、他事業所の豪業者との交流の機会を促している。	地域包括支援センター主催の事例検討会や研修に参加し交流している。法人の委員会が主催した講演会には、他事業所にも案内し、様々な人が参加して情報交流を行っている。	
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に入居者様やそのご家族様と直接顔を合わせて話を聞き、それを入所後のケアに行かせるように努めている。また、日頃のコミュニケーションを通してご本人様の思いや悩みを把握・理解できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との話を通して施設内の生活としてどんなことを望んでいるか、利用に際してどのような不安を抱えているのかを伺い、それらに配慮した対応が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の面談の際にご家族様・ご本人様の意向を伺い、極力それに沿えるような対応を心掛けている。当事業所で難しいような事に関しては、協力機関などに相談しながら、希望に添えるようなサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のコミュニケーションやかかわりを通して信頼関係を築き、ご本人様中心の寄り添ったケアが出来るように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話連絡の際に近況報告を行っている。又、ご家族様が抱えている想いを察知し、話廉ような雰囲気・関係づくりに努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の生活歴を確認し、施設入所後も継続できるものについては職員がサポートしながら入所後も継続できるように努めている。また、ご友人やなじみの方などの面会についてもご家族様と相談しながら随時受け入れを行っている。	馴染みの関係が継続できるように、家族の協力を得て、病院や美容院に通えるように支援している。知人が面会に来て談笑している人もいる。家族や医師に相談し、携帯電話を使用したり、知人との手紙のやり取りができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションやお茶飲みなどを通して、各入居者様間の団らんや交流の時間を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方でも、必要に応じて連絡や相談を受けられるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安全面に配慮しながら各々の生活歴や習慣をGH入居後も継続して行っていただけるようにしている。	日々の生活の中で把握した入居者の意向や思いは、タブレットに申し送りとして記録し、情報共有している。また、家族とも相談しながら、入居者の思いを実現できるように支援している。ビールを飲んだり、昔から行っていたドリルや麻雀を楽しんでいる人もいます。意思表示の難しい人は表情を読んだり、コミュニケーションを工夫して把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様や前任ケアマネと連絡を取り合い情報を得ながら、入所後の生活やサービス提供に反映させられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやipadの申し送り欄を活用し、職員間で情報の共有を行っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、職員会議の場でその方の生活の様子などについて話し合い、ケア計画に反映させている。ケア計画更新前にはご家族様へ電話や書面での生活の意向確認を行っている。	毎月モニタリングし、ユニット会議でカンファレンスを行い、3ヶ月ごとに見直している。家族には面会時や電話で話を聞くほか、書面でも意見や要望を記入してもらい介護計画に反映させている。医師や往診歯科医師、栄養士からの意見も聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやpadの申し送り欄の活用。日々の様子の記録をしっかりと行う事で、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門的なことは他職種（医師、看護師、歯科医師、栄養士など）に相談し助言や意見を求め、ケアに反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事への参加や、東北福祉大の実習生やボランティア受け入れを行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に当法人の理事長がかかりつけ医になる為、密な連携が取れている。また、入所前からのご本人様なじみの病院への通院は、ご家族様の協力を頂きながら継続できるように努めている。	協力医がかかりつけ医の入居者には職員が同行し、週1~2回通院している。入居前のかかりつけ医に通院する時は家族が付き添っている。通院が難しくなった時は訪問診療を紹介し、2週間に1回受診している。週1回、訪問看護師が訪れ、健康管理のほか職員の相談や助言を得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に仙台北訪問看護ステーションの回診がある。その際に、体調面で気になることなどを相談し助言頂いている。また、夜間など急な体調変化があった場合も、連絡し助言や指示を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	連絡時に担当の看護師と情報交換を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を契約時にご家族様へ説明している。又、ご本人様ならびに家族様の意向や主治医の意見を鑑みて、より良いターミナルケアが出来るように努めている。	看取りの実績がある。入居時に、「利用者が重度化した場合における対応に係る指針」について説明している。重度化した時は、家族や医師と今後の対応について話し合い、看取り期には医師から改めて説明があり、同意書を交わしている。職員は看取りの研修に参加し、経験者からも助言を得ている。看取り後は職員の意見を聞き、精神的なケアにも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	オンコールマニュアルを整備し、それに沿って対応できるように努めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を整備している。また、年2回以上の避難訓練を実施して有事に備えている。	火災等のマニュアルがある。年2回、うち1回は夜間想定で避難訓練を行っている。町内に周知し、避難訓練時の誘導協力を得ている。居室のドアに介護度別のシールを貼り、協力してもらう住民にもわかりやすいように工夫している。備蓄品は3日分準備し、設備点検は業者が行っている。感染症予防対策として検温を徹底し、抗原キットも活用している。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の人格を尊重し、個人の尊厳を大切に声掛けや対応が出来るように努めている。	基本、苗字に「さん」をつけて呼んでいるが、希望を聞き名前に「さん」の人もある。親しい関係性ができていても丁寧な話し方を心がけている。排泄時は特に本人のプライドに配慮し、周りに気づかれないように声がけしている。本人が持っている残存能力を維持し、生かせるようなケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時の服選びや行事の内容など、入居者様個人個人の考えや意向を大切に出来るように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲で、ご本人様の意思を尊重したケアが出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びは入居者様と一緒に話し合いながら行っている。その日の気候や気温などを鑑みて、職員がアドバイスを行っている。また、美容室へ通う事が難しい方向けに2か月に1回のペースで訪問美容を頼み、カット・カラー・パーマなどを事業所内で行えるように支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事等で入居者様の食べたいもののリクエストを伺って内容に反映できるように努めている。また、調理の際には味見や食材切り、食器拭き・洗いなど役割を持っていただきお手伝い頂いている。	朝食はチルド食を利用し、昼・夕食は法人の栄養士が献立を作成し、職員が手作りしている。食材は法人で一括購入している。行事食は職員が入居者からリクエストを聞き、献立を考え手作りして楽しんでいる。栄養士が訪問し嚥下障害など、状態に合わせたケアについて助言を得ている。入居者は調理や後片付けなど、できることを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌を活用しながら、入居者様の食事・水分摂取量の管理を行っている。個々の状態や病状を把握し、主治医や栄養士と相談しながら提供の方法などを随時検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様一人一人の状態に応じて口腔ケアの支援を行っている。また、希望される方については定期的に千葉デンタルオフィスの往診を受けて頂き、口腔内のチェックやケア・治療を行っていただいている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	業務日誌を活用しながら排泄のパターンや排便感覚の把握に努めている。トイレで排泄する能力がある方については、定期的にトイレの声掛けを行う事で、失禁の予防や排泄の自立支援を行っている。	各居室にトイレが設置してある。入居者の導線を考慮し、自立している人が自力でトイレまで安全に行けるよう、家具の配置をその人に合わせ工夫している。排泄のタイミングや仕草をみて、声かけしトイレに誘導している。夜間は転倒防止のため離床センサーやナースコールを活用している人もいる。睡眠重視と排泄の優先について医師の指導を受けることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩など適度な運動に参加して頂く事で、自然な排便を促せるように配慮している。また、排便間隔に応じて緩下剤を活用しながら定期的な排便を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な範囲で入居者様の体調やその日の気分に合わせて入浴して頂けるように配慮している。入浴介助についても、各入居者様の羞恥心に配慮しながら介入するように努めている。	基本、入浴は週2～3回午後後に支援しているが、希望があれば応じている。湯はかけ流しや状態に合わせてシャワー浴でも対応している。入居者の羞恥心に配慮し、同性介助の希望にも対応している。拒否の人には声がけを工夫しながら、入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様の体調に合わせて、日中も休んでいただける時間を設けている。また、日中はレクリエーションや体操などへの参加を促し、適度な疲労感が夜間の安眠につながるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝・昼・夕・就寝前それぞれ薬のケースに仕分けして職員が管理している。各入居者様ごとの服薬内容や作用について、お薬手帳や処方箋を確認し職員間で把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションやご家族様との会話を通じて、ご本人様の趣味趣向を把握できるように努めている。また、入居前の生活歴などを確認し入居後も継続できるものについては安全面に配慮しながら継続して頂けるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には職員と一緒に近所の散歩を行っている。又、感染状況に配慮しながら行事などでドライブや外出行事も随時行っている。	職員と一対一で、近所の店に買い物や寺に散歩に出かけている。同法人の事業所から送迎車両と運転手の協力を得て、秋保や青葉城などにドライブに出かけている。家族と一緒に墓参りや外食に行く人もおり、その際は感染症予防対策について説明している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を自己管理されている方もおり、散歩や外出時に買い物をして頂けるように支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や親戚・友人の方から連絡があった際には、ご本人様に取り次いでお話しして頂いている。また、携帯電話を持ち込まれている方もいらっしゃるの電話を掛けたり通話の支援も職員が行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに各入居者様の写真を掲示している。又、ホールには季節を感じて頂けるような壁飾りを飾り、季節を感じて頂けるように配慮している。また、共有スペースや各居室の清掃を毎日実施し清潔の保持をするとともに、共有スペース内に危険なものがないかどうか随時確認し、安全に過ごしていただけるように配慮している。	ホールや廊下には、入居者が参加したイベント時や外出時の写真が飾られ、来訪した家族は日常の様子を伺うことができる。また、入居者と職員と一緒に手作りした季節の飾りもあり、季節感のある雰囲気になっている。季節に応じて加湿器を利用したり、カーテンで日差しを調節するなど、居心地よく過ごせるように配慮している。廊下にはソファを置き、休めるようにしている。掃除や片付けは入居者も一緒に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的に各入居者様の居室を訪室し、温度や湿度を確認することで、快適に過ごしていただけるように配慮している。また各入居者様との団らんの時間とプライベートの時間を大切に出来るように配慮している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各入居者様ごとに自宅で使用していた馴染の物を持参して頂き、居室などで使用して頂いている。職員は、居室内で危険が無いように、ご本人様の身体状況や安全面に配慮しながら見守りや対応を行っている。	トイレ・洗面台・クローゼット・照明・カーテンが備え付けられている。入居者は使い慣れたテレビやラジオ・椅子やタンス・読書用の本などを持ち込んでいる。職員が巡回時に温・湿度を管理している。職員は入居者の動線を考えて家具を配置している。掃除を自分で行う入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間で各入居者様の状態を共有できるように定期的にカンファレンスで話し合いの場を設けている。出来ること・出来ない事・やりたいが一人では難しい事の把握に努め、個人個人に合わせて職員が介入し極力自立した生活を送って頂けるように支援している。		

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101853	事業の開始年月日	2005年4月1日	
		指定年月日	2005年4月1日	
法人名	社会福祉法人 大樹			
事業所名	グループホームひなた ユニット名：2階			
所在地	(〒 981-0944 ) 仙台市青葉区子平町17-19 グループホーム ひなた2階			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2024年3月19日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に密着した施設の為、地域の行事にも入居者様と参加させていただき交流を図り、施設が孤立しない環境が出来ている。また、日々の散歩を通して地域の方とも交流し、施設の外にでて季節を肌で感じたり、気分転換がしやすい様に工夫しています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2024年3月29日	評価機関 評価決定日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の理念】</b> 認知症高齢者が住み慣れた町の中で、顔なじみの地域の方々とのふれあいを楽しみながら、本人の生きる力・残存能力を最大限に発揮し、自分らしさを十分に保ちつつ明るく生活できるように介護し、「ここで暮らせて幸せだった。」と、実感できるサービスを提供します。 〈ユニット理念:1階〉「やさい」(みんなが持っている「やさしい気持ち」、みんなで「支え合う」、みんな「いつも笑顔で」) 〈ユニット理念:2階〉法人理念と同じ</p> <p><b>【事業所の概要】</b>母体法人について・立地環境・建物の特徴等 母体法人の「社会福祉法人大樹」は、仙台市内でグループホーム・特別養護老人ホーム・デイサービス・小規模多機能型居宅介護事業所などを運営している。『福祉と医療の連携による安心・快適な暮らしのネットワーク』を掲げ、地域の医療機関、同法人の介護事業所と連携を図りながら取り組んでいる。「グループホームひなた」は、JR仙山線の東北福祉大前駅から徒歩15分ほどの静かな住宅街の中にある2階建ての建物で、2005年に開所した。</p> <p><b>【事業所の優れている点・工夫点】</b> 「『自分らしさ』を十分に保ち～」とするホーム理念を念頭に、地域の中で入居者が、その人らしく生活できるように外出支援に努め交流の機会を作っている。ホームが設立して19年目となり、地域のごみ集積所として敷地の一部を提供したり、行事や避難訓練に近隣住民が参加し協力が得られるなど、地域との関係を深めている。家族には広報紙「ひなたぼっこ」と一緒に、一人ひとりの様子を伝える手紙を添えるなど、連絡を密にするように努めている。職員が意見や提案を「会議ノート」に記載し、会議時に検討課題に反映するなど、職員の意見を尊重しながら環境整備を行っている。法人として職員の資格取得や外部研修参加時の費用補助制度を設け、職員のスキルアップを図っている。理事長が医師であり、かかりつけ医や協力医療機関(歯科も含)、訪問看護師と医療連携が充実している。</p>
---

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	グループホームひなた
ユニット名	2階

**V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある
		<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3. たまにある
		<input type="radio"/>	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2. 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	3. 家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3. たまに
		<input type="radio"/>	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
		<input type="radio"/>	2. 少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	3. あまり増えていない
		<input type="radio"/>	4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2. 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2. 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームひなた）「ユニット名:2階」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を常に見えるところに掲示していつでも見て再確認ができるようにし、ケアを実践できるようにしている。	年度末に理念について職員で振り返りを行い、2023年は継続することにした。理念を確認しやすいよう、ホーム内やトイレに掲示し意識付けに努めている。入居者が入居後も地域や家族との繋がりが希薄にならないよう、面会支援や外出の機会を作っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々、散歩を行い地域の方と交流できるように工夫をしている。	町内会に加入し、地域用の広報紙「ひなた便り」を地域の情報紙と一緒に町内に回覧している。総会にも参加し、地域住民との関係づくりを大切に取り組んでいる。近隣住民とは散歩の際や、敷地の一部を地域のごみ置き場として提供しているので会う機会が多く、挨拶を交わしている。法人の夏祭りに住民も参加している。近くの大学の実習生やボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域向けの広報誌を定期的に用意して、地域の回覧板にて情報の発信をしている。また、2カ月に1回の運営推進会議にて施設内の事や情報をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会にて報告や話し合いを行い、地域の方の意見を取り入れている。また、地域の活動の参加させて頂いたり、ひなたにボランティアで着て頂けるように働きかけている。	家族代表・町内会長・副会長兼民生委員・地域包括職員・職員が参加し、奇数月に開催している。現在は中断しているが交番職員にも出席を要請し、防犯指導を受けていた。ホームからは運営・行事などの近況を報告し、町内から地域の情報を得ている。職員は議事録を閲覧し、また、全体会議でも報告され、情報共有している。家族からは終末期の対応や病院との関係などについて質問が出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	重大事故の時には、仙台市への報告も行っています。また、介護保険証の更新のためにご家族様に代わり手続きを代行して仙台市と連絡を取っています。生活保護の方もいらっしゃいますので、介護課と連絡を取っています。	地域包括職員が運営推進会議に参加し、情報交換している。地域包括支援センター主催の事例検討会や研修に参加し、ケアに活かしている。仙台市とは生活保護の入居者について連携しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての資料を壁に掲示して、常に理解を深められるように努めている。また、玄関の施錠や策や鍵を使った拘束はしていない。	身体拘束・虐待防止・権利擁護について年6回研修を行っている。3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会を開催し、グレーゾーンの事例を挙げ検討し、職員は議事録を閲覧して共有している。職員が「会議ノート」に記入した事例については、全体会議で検討したり、管理者が個別に相談にのることもある。外出傾向の強い人にはユニット間で連携し、一緒に散歩するなど対応している。玄関は防犯上、20時から6時まで施錠しセンサーを設置している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の高齢者虐待防止の研修を実施して学ぶ機会と防止に努められるように意識付けを行っている。	職員から出されたグレーゾーンの事例を挙げ、検討しながら研修を行っている。管理者は、職員が余裕を持って従事できるように努め、普段から話しやすい雰囲気づくりに配慮している。また、ストレスチェックを実施し、産業医に相談できる体制を作り、職場環境を整えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年2回の権利擁護についての研修を実施し学ぶ機会を設けている。また、必要な方に関しては、担当職員と役職や管理者と相談しながら入居者様やご家族様を支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の時には、書類をもとに読み合わせを行いながら説明できている。また、その都度、疑問点を伺いいつでも質問して頂けるように声掛けを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して意見を募れるように工夫している。また、運営推進会議を通して、ご家族様からの意見が聞かれた際には、地域の方へも伝達している。可能な範囲で運営にも、相談の上反映できるように努めている。	居室での面会を再開し、訪れた家族から意見や要望を聞いている。毎月、家族向けの広報紙「ひなたぼっこ」と一緒に、入居者ごとに日常の様子を書いた手紙を添えて、家族に送付しており、家族の楽しみになっている。家族には外出、外泊の相談をしたり、これまでの習慣などの話を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役職者は、常に職員とコミュニケーションを図り、入居者様の事以外にも運営の事や業務の事について意見を吸い上げている。また、吸い上げた意見を管理者に報告して反映できるように努めている。	ユニット会議で入居者や業務について話し合い情報共有している。職員が気が付いたこと、意見・要望を自由に記入できる「会議ノート」を活用し、検討が必要な場合は会議で話し合い、情報共有している。法人では7つの委員会を設け、職員は役割を担い参加し運営に活かしている。研修や資格取得のための費用補助制度がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境になる様に、個々の意見を聞き入れている。また、ここの得意とする分野を仕事として割り振り力を発揮しやすいように工夫している。役職者が日々の様子を観察し把握に努められている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回は、個人の学びたい研修に行けるように外部研修の機会を設けている。また、内部研修も月に1回行い働きながらも知識を増やせるように進めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や法人の委員会、法人の交流会を通して他事業所との交流する機会がある。その場面から得た情報をサービスの質の向上に繋がっている。	地域包括支援センター主催の事例検討会や研修に参加し交流している。法人の委員会が主催した講演会には、他事業所にも案内し、様々な人が参加して情報交流を行っている。	
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めは、良い関係を築けるように事前情報をもとにコミュニケーションを図り関係を築けている。そこから、本人の気持ちや不安なことを汲み取り、本人の安心につながる様にご家族の協力を得ながら努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階で、ご要望を伺いケア計画にも反映させて頂いている。また、面会やお電話でコミュニケーションを図り、要望や不安なこと等の意見にも耳を傾けて良い関係が築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状のフェイスシートや本人の状態をもとに、職員間で話し合い、必要な物、必要なサービスについて意見をまとめて、ご家族様やご本人にお伝えし色々なサービスの利用に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする家族の様な関係になる様に、意識しながら関係作りを努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と入居者様、ご家族様が一つのチームとなり、個々の絆を大切にしながら支えていけるように関係を作れている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響もあり、面会の制限はありますが、感染予防を徹底したうえで関係が切れないように支援出来ている。面会以外にも、電話などを利用して関係の維持に繋げている。	馴染みの関係が継続できるように、家族の協力を得て、病院や美容院に通えるように支援している。知人が面会に来て談笑している人もいる。家族や医師に相談し、携帯電話を使用したり、知人との手紙のやり取りができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格等を考慮して随時、席の調節を行っている。また、孤立しないように席の工夫をしながら職員が入居者様同士の関係のパイプ役を出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも、必要があればいつでも訪問や連絡して頂いてもいいようにお伝えしいつでも、相談や支援に繋がられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケア計画の更新の時期には、ご本人にご要望を伺っている。また、要望を伺えない方に関しては、本人本位になる様に検討している。	日々の生活の中で把握した入居者の意向や思いは、タブレットに申し送りとして記録し、情報共有している。また、家族とも相談しながら、入居者の思いを実現できるように支援している。ビールを飲んだり、昔から行っていたドリルや麻雀を楽しんでいる人もいます。意思表示の難しい人は表情を読んだり、コミュニケーションを工夫して把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、フェイスシートをもとに生活歴や生活環境、これまでのサービスの利用について把握できるように情報の開示を職員に行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や入浴などの全身の状態を確認できる機会を活用して現状の把握に努められている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様には、ケア計画意見書をお渡しして、意見を汲み取っている。また、カンファレンスを行い職員間で現状の課題やケアプランについて検討出来ている。検討した内容を、必要に応じて各種に伝達し、必要なサービスを受けられるように連携している。	毎月モニタリングし、ユニット会議でカンファレンスを行い、3ヶ月ごとに見直している。家族には面会時や電話で話を聞くほか、書面でも意見や要望を記入してもらい介護計画に反映させている。医師や往診歯科医師、栄養士からの意見も聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の発言を詳しく記録に残している。また、日々の生活から気づいたことを職員間で情報共有し、ケア計画の見直しに繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具や病院、歯医者、明治牛乳の宅配など入居者様やご家族様のニーズに合わせて各業種と連携を図り、多機能化できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の生活の楽しみや暮らしの支えになる様な社会資源を地域の方や地域訪各支援センターの職員さんと話し合う場を利用して把握に努めている。またニーズに合わせて、支援に繋げている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から、法人と連携している病院を利用されている入居者様も多く、安心して受診が継続できるようになっている。また、初めての入居者様、ご家族様でも、主治医との面談をお通して受けられる治療の説明を直接聞くことが出来るので安心に繋がられている。	協力医がかかりつけ医の入居者には職員が同行し、週1~2回通院している。入居前のかかりつけ医に通院する時は家族が付き添っている。通院が難しくなった時は訪問診療を紹介し、2週間に1回受診している。週1回、訪問看護師が訪れ、健康管理のほか職員の相談や助言を得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期通院や週1回の訪問看護ステーションの回診時に入居者様の状態を報告できている。また、相談したいこともお伝えして、必要な治療に繋がられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先が、法人と提携の病院がある為、スムーズな情報の交換や退院の早期対応も可能にしている。また、家族様と病院との情報交換や相談にも努めて、良い関係を保てるように努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に近い入居者様がいらっしゃる時には、ご家族様と主治医、施設の職員とで話し合いを行い、状態の確認から今後の方針について相談し合っている。場合によっては、他施設への移動の相談やサポート他施設との連絡も行っている。	看取りの実績がある。入居時に、「利用者が重度化した場合における対応に係る指針」について説明している。重度化した時は、家族や医師と今後の対応について話し合い、看取り期には医師から改めて説明があり、同意書を交わしている。職員は看取りの研修に参加し、経験者からも助言を得ている。看取り後は職員の意見を聞き、精神的なケアにも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを用意しており、入職後に確認して頂く流れがある。また、急変しそうな方の場合は、その方用の緊急対応マニュアルを作成して、周知後に壁に掲示して誰でも対応しやすいようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策マニュアルや連絡網を作成しており、随時動けるようにしている。また、管理者や役職者が随時、指示を出せるようになっている。地域の方との合同の避難訓練も実施しているので地域との協力体制もできている。	火災等のマニュアルがある。年2回、うち1回は夜間想定で避難訓練を行っている。町内に周知し、避難訓練時の誘導協力を得ている。居室のドアに介護度別のシールを貼り、協力してもらう住民にもわかりやすいように工夫している。備蓄品は3日分準備し、設備点検は業者が行っている。感染症予防対策として検温を徹底し、抗原キットも活用している。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の人格や誇りを損ねないように常に丁寧な言葉を使用してプライバシーが保てるように配慮している。	基本、苗字に「さん」をつけて呼んでいるが、希望を聞き名前に「さん」の人もいる。親しい関係性ができていても丁寧な話し方を心がけている。排泄時は特に本人のプライドに配慮し、周りに気づかれないように声がけしている。本人が持っている残存能力を維持し、生かせるようなケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を提供して、入居者様に選んでいただけるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間は集まって頂くが、その他の時間では、休まれたり、散歩に行かれたり、掃除をされたりと各自がご自分の時間で好きなように過ごせるようにしてる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、ホットタオルを使用して顔をお拭いていただき、上着はどちらが良いか選んでいただくようにしてご自分の好みの物を着て頂けている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを入居前に事前情報として収集している為、代替え職の用意もできている。また、好みの食べ物があればご家族様に依頼して食事の際に提供できるように準備して頂いている。	朝食はチルド食を利用し、昼・夕食は法人の栄養士が献立を作成し、職員が手作りしている。食材は法人で一括購入している。行事食は職員が入居者からリクエストを聞き、献立を考え手作りして楽しんでいる。栄養士が訪問し嚥下障害など、状態に合わせたケアについて助言を得ている。入居者は調理や後片付けなど、できることを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	リズム表を活用しながら一人の摂取量を常に把握できるようにしており、入居者様が使いやすいものの検討や栄養士と相談しながら、食事の形態も工夫が出来、支援できる状態である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、食後に口腔ケアをして頂けている。また、月1回歯科往診も利用しており、定期的なクリーニングや治療を受けれるようにできている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄のリズムや排泄の量を把握したうえで排泄のアイテムの検討や誘導のタイミング、いかに負担なくご自分でして頂けるか検討して、実施できている。	各居室にトイレが設置してある。入居者の導線を考慮し、自立している人が自力でトイレまで安全に行けるよう、家具の配置をその人に合わせ工夫している。排泄のタイミングや仕草をみて、声かけしトイレに誘導している。夜間は転倒防止のため離床センサーやナースコールを活用している人もいる。睡眠重視と排泄の優先について医師の指導を受けることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足にならないように毎日の体操へのお誘いや食事に乳製品を用意して出やすくなるような工夫をしている。また、ここに合わせお薬の調整や食べ物の調整もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、どんな声掛けを行うと入って頂けるか、言葉がけにも注意して、お風呂のお誘いしている。また、本人の入りたい希望を尊重して入る日は随時調整している。間隔が開きすぎないように、職員をチェンジしたりなるべく入りたいと思って頂けるように工夫している。	基本、入浴は週2~3回午後後に支援しているが、希望があれば応じている。湯はかけ流しや状態に合わせシャワー浴でも対応している。入居者の羞恥心に配慮し、同性介助の希望にも対応している。拒否の人には声掛けを工夫しながら、入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた様子や眠そうな姿が見られた時には、居室へ誘導して休んで頂けるように働きかけている。ただ、日中帯に寝すぎて夜寝れなくなる事が無いように、短時間で休んで頂いている。また、日中帯の適度な疲労感を感じて頂けるようにレクリエーションやお手伝いに参加して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ケースに効能を一緒に張り付けており、必ず効能まで確認できるようになっている。また、お薬の変更があった時には、申し送りを活用して職員全員に伝わる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の、されていたお仕事や趣味を日々の生活でも生かせるように工夫して、お手伝いやレクリエーションにお誘いしている。また、散歩も毎日行い気分転換が図れるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様やご家族様の外出の希望がある場合には、外出できるように支援出来ている。	職員と一対一で、近所の店に買い物や寺に散歩に出かけている。同法人の事業所から送迎車両と運転手の協力を得て、秋保や青葉城などにドライブに出かけている。家族と一緒に墓参りや外食に行く人もおり、その際は感染症予防対策について説明している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は入居者様自身の責任でお持ちいただいている。また、使用した場合にはご家族様に報告を行い場合によっては、補充して頂くように促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って来られた方に関しては、ご自身でして頂いている。それ以外の方に関しては、希望があればご家族様に確認をしてから、お電話やお手紙のやり取りの支援をしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所には、一人で静かに落ち着ける場所もあり、活動する場と分けられている。また、季節の壁飾りや入居者様の楽しそうな写真を貼り明るい雰囲気を作れている。時には、テレビを消してラジカセからの昔の歌や音楽を楽しむ時間も作っている。	ホールや廊下には、入居者が参加したイベント時や外出時の写真が飾られ、来訪した家族は日常の様子を伺うことができる。また、入居者と職員と一緒に手作りした季節の飾りもあり、季節感のある雰囲気になっている。季節に応じて加湿器を利用したり、カーテンで日差しを調節するなど、居心地よく過ごせるように配慮している。廊下にはソファを置き、休めるようにしている。掃除や片付けは入居者も一緒に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は決まっているが、その時の雰囲気や入居者様の気持ち次第では席の移動や変更も行い、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、普段使っていた家具や日用品、人形や食器をお持ちいただいて、今までの生活の延長であることを感じて頂けるように工夫している。随時、その時の状態に合わせて、心地よく快適に過ごせるように検討できている。	トイレ・洗面台・クローゼット・照明・カーテンが備え付けられている。入居者は使い慣れたテレビやラジオ・椅子やタンス・読書用の本などを持ち込んでいる。職員が巡回時に温・湿度を管理している。職員は入居者の動線を考えて家具を配置している。掃除を自分で行う入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が入居者様の出来る事を把握したうえで、職員同士で情報の交換を行い、できるところをして頂けるような言葉がけを行いながら、事故の無いように見守りを行っている。		